

# 白鷹町の環境への取組

## 第3次白鷹町環境基本計画

### 目的・期間

- ◆白鷹町環境基本条例に基づき、白鷹町の環境の現状や社会情勢等を踏まえつつ、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的に策定するもの。
- ◆「第6次白鷹町総合計画」に掲げた町の将来像を、環境という側面から実現していくための計画として位置づけるもの。
- ◆令和5年度から令和14年度までの10年間

### 目指すべき環境像

**人と自然の営みが調和し、時を紡いでいく、潤いのまち**

～自然との共生による持続可能なまちづくり～

【基本目標1】 良好な空気と水環境等を保全し、安心な暮らしを守ります

具体的取組：①大気の保全 ②水環境の保全 ③その他の環境保全

【基本目標2】 豊かな森林と農地を守り、活かし、育てます

具体的取組：①森林の保全と有効活用 ②持続可能な農地の保全 ③生物多様性の保全

【基本目標3】 脱炭素社会の実現にむけ、地球温暖化対策を進めます

具体的取組：①地球温暖化対策の推進 ②省エネルギーの推進 ③再生可能エネルギーの推進

【基本目標4】 ごみの減量、資源の循環に取り組みます

具体的取組：①ごみの減量 ②リサイクルの推進 ③ごみの適正処理

【基本目標5】 歴史・文化を継承し、美しい風土を守ります

具体的取組：①歴史的・文化的資源の保全 ②景観の保全

【基本目標6】 一人ひとりが「自分ごと」として、環境保全に取り組みます

具体的取組：①環境教育・環境学習の推進 ②環境保全活動の活性化

## 白鷹町ゼロカーボンシティ宣言

白鷹町は、西に朝日連峰、東に白鷹丘陵を仰ぐ盆地を形成し、中央を最上川が流れ、その周りに水田地帯が広がる自然豊かな町です。

近年、豪雨や猛暑など地球規模での温暖化が原因と思われる災害が多発しており、町民生活に深刻な影響を及ぼしています。

これらを背景として、白鷹町は町民や事業者と一体となって、SDGsの視点を持った持続可能なまちづくりと、豊かな自然を次の世代に引き継いでいくために、脱炭素型ライフスタイルなどの普及や再生可能エネルギーの地産地消、緑の循環システムの推進など、地球温暖化防止への取組みや二酸化炭素の吸収源である森林の整備等を行い、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指していくことを宣言します。

令和3年11月3日

## 白鷹町地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）

### 目的・期間

- ◆二酸化炭素排出削減に向けた施策を定め、地球温暖化防止対策の促進を図る。
- ◆令和4年度から令和12年度までの9年間

### 白鷹町地球温暖化対策実行計画におけるCO2削減目標

2030（令和12）年度までに、2013（平成25）年度と比較し、二酸化炭素の排出量を46%削減することを目指します。

	年度	二酸化炭素排出量	削減率
基準年度	2013（平成25）	99千t-CO <sub>2</sub> /年	-
現況	2018（平成30）	82千t-CO <sub>2</sub> /年	17%
目標年度	2030（令和12）	53千t-CO <sub>2</sub> /年	<b>46%</b>

**森林吸収源対策** ◆緑の循環システムの推進 ◆町産材等木造建築の推進 ◆公共施設の木材利用 等

**省エネルギー対策** ◆高気密高断熱住宅の推進 ◆省エネ家電・省エネ機器の導入 ◆ごみ減量化 等

**再生可能エネルギー設備等導入** ◆再エネ設備導入支援 ◆公共施設への再エネ設備導入 等

**自動車対策** ◆エコドライブの促進 ◆公用車の低公害車導入 ◆公共交通機関利用促進 等

**環境意識啓発の推進** ◆環境フェアの開催 ◆講師派遣 等

## 第2次白鷹町エネルギー計画

### 目的・期間

- ◆令和4年3月に策定した「白鷹町地球温暖化対策実行計画」において定めた二酸化炭素の排出量の削減目標を達成するため、エネルギー分野からのアプローチや実施体制を検討するための計画
- ◆令和5年度から令和14年度までの10年間

### 基本目標

再生可能エネルギー導入目標	町内の電気使用量に対し、再生可能エネルギーの推定発電量30% 町内の灯油・ガス・LPG使用量に対し、木質バイオマス推定使用量10%
省エネルギー導入目標	町内のエネルギー消費量を10%削減

【基本方針1】 快適な環境を実現する省エネルギーの推進  
◆やまがた環境健康住宅基準等を活用した新築支援 ◆住宅や事業所の断熱リフォーム支援の検討

【基本方針2】 再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりの推進  
◆再生可能エネルギーの導入促進 ◆営農型太陽光発電の検討

【基本方針3】 町内経済循環の促進  
◆事業所に対する制度、補助金活用支援

【基本方針4】 エネルギー対策への理解の促進・意識啓発  
◆エネルギー対策に対する、町民・事業者の意識啓発

連動

# みんなのゼロカーボンアクション 一人ひとりができること

## 食のゼロカーボンアクション

日本の食品ロス量は、1人1日あたりおにぎり約1個分(130g)と言われます。白鷹町民で計算すると1日で約1,677キロ、1年間では約612トン。家庭できる小さな取組ですが、ゼロカーボンへの大きな一歩です。

- 適量を注文し食べ残しをなくそう！
- 地元の食材を利用しよう！
- 食材は買いすぎないようにしよう！
- 「てまえどり」を心がけよう！



## 省エネ家電のゼロカーボンアクション

家庭の電気使用量のうち、約4割は「冷蔵庫」「照明器具」「テレビ」「エアコン」に使われています。古い家電を使い続けるよりも、省エネ性能の高い家電に買い換えることで電気代が節約できる場合があります。

- 家電の購入や買い換える時は、「省エネ」に注目して製品を選ぼう！

## ファッションのゼロカーボンアクション

日本の衣類の廃棄量は年間約100万トン、1人あたり約26枚に相当します。大切に長く着る、着てくれる方にあげるなど、ファッションにおいても環境を意識した行動をすることが大切です。

- 長く着られる服やリサイクル素材を使用した環境に配慮した服を選ぼう！
- 今持っている服を長く使おう！
- 着なくなった服はフリマなどで「リユース」しよう！



## 車のゼロカーボンアクション

白鷹町で生活するうえで欠かせない車。毎日の生活で必ずと言っていいほど使用する車のCO<sub>2</sub>排出量や燃料消費量を減らすことは、ゼロカーボンの達成に向けた重要な取組です。

- 「ふんわりアクセル(最初の5秒で時速20キロ)」などのエコドライブに心がけよう！
- 近い距離は歩きや自転車で移動しよう！
- 公共交通機関を積極的に利用しよう！



## 4Rのゼロカーボンアクション

ごみの削減には、「リデュース(発生抑制)」「リユース(再使用)」「リサイクル(再生利用)」「リフューズ(断る)」の4Rの取組がとても重要です。ごみを減らすことで、環境負荷が軽減します。

- マイバッグやマイボトルを利用しよう！
- プラスチック容器、お菓子の箱、缶やビンなど、資源ごみはリサイクルを！



## 暖房効率を上げるゼロカーボンアクション

住宅の燃料費を抑えていくためには、断熱性を向上させることが大切です。窓や壁材の断熱リフォームは、投資は大きくても、中長期的には暖房費や電気代の抑制につながる可能性があります。また、断熱性の向上によって廊下や脱衣所と部屋との間の温度差が解消され、ヒートショックなどの体への負担を軽減することにもつながります。

- 住宅の高気密化・高断熱化を検討しよう！
- 新築の際は、高い省エネ基準の住宅を検討しよう！

## ウォームビズでゼロカーボンアクション

ウォームビズは、暖房に必要なエネルギー使用量を削減し、CO<sub>2</sub>の発生を抑制します。冷暖房器具の室温設定の調節による省エネ効果は、夏よりも冬のほうが大きく、冬の暖房器具使用時の室温設定を今までよりも下げることで、電気代節約にもつながります。「衣・食・住」のひと工夫で暖かく過ごすことができます。

- 「衣」・・・首、手首、足首など太い血管のある部分を温めることで体全体が温まります。重ね着も有効です。
- 「食」・・・鍋は、おいしくて、身体も部屋も温かくなる料理です。根菜は、体を温める効果があります。
- 「住」・・・暖房を効率的に使用するには、温めた空気を外に出さない工夫が必要です。全体の熱の約50%は窓から流出するので、断熱シートなどで防ぎます。

## 木を取り入れるゼロカーボンアクション

木材を住宅や家具に利用し、大事に使い続ければ、木材の中に固定された炭素を長い間蓄えることになり、大気中のCO<sub>2</sub>濃度の上昇抑制につながります。さらに石油などの化石燃料の代わりに木質バイオマスをエネルギーとして利用すれば、その分、CO<sub>2</sub>の排出を抑制することができます。

- くらしの中に木を取り入れよう！(木材を使う)



## 再生可能エネルギーのゼロカーボンアクション

再生可能エネルギーである太陽光や木質バイオマスを電気や熱源に活用することは、化石燃料の削減につながります。太陽光発電設備は、災害時にも利用でき、電気代の節約にもなります。また、木質バイオマス燃焼機器の普及は、燃料となる木を伐採・利用・植林・育林することで森林の若返りにつながり、森林のもつCO<sub>2</sub>吸収力を高めます。

- 太陽光発電設備の導入を検討しよう！
- ペレットストーブや薪ストーブの導入を検討しよう！

### <くどのくらいのCO<sub>2</sub>削減につながるの？(年間)>

1世帯(4人家族)が一年間に排出するCO<sub>2</sub>の量はおよそ5トンと言われています。

アクション	CO <sub>2</sub> 削減量
家庭と外食の食品ロスがゼロになった場合	1人あたりのCO <sub>2</sub> が54kg減
一部の野菜・果物を地産地消した場合	1人あたりのCO <sub>2</sub> が8kg減
衣類の購入量を1/4程度にした場合	1人あたりのCO <sub>2</sub> が194kg減
1年間に購入する服の10%(1.8枚)をリサイクル素材を使った服にした場合	1人あたりのCO <sub>2</sub> が29kg減
マイボトルを活用した場合	1人あたりのCO <sub>2</sub> が4kg減
マイバッグを活用した場合	1人あたりのCO <sub>2</sub> が1kg減
家庭から出る容器包装プラスチックをすべて分別してリサイクルした場合	1人あたりのCO <sub>2</sub> が4kg減
冷蔵庫を10~14年程度前の製品から最新型の製品に買い換えた場合	1世帯あたりのCO <sub>2</sub> が163kg減
断熱リフォームを行った(平均的な断熱材から断熱等性能等級4に変更した)場合	1世帯あたりのCO <sub>2</sub> が142kg減
窓を二重窓に取り替えた場合	1世帯あたりのCO <sub>2</sub> が47kg減

(出典:環境省「ひとりひとりができること ゼロカーボンアクション30」「サステナブルファッション」)

### <エコドライブで燃費改善！>

- 発進時の「ふんわりアクセル(最初の5秒で時速20Km)」により、10%程度燃費が改善します。
  - ゆとりの車間距離で、加速・減速の少ない運転を。短い車間距離で無駄な加速・減速が多いと2~6%燃費が悪化します。
- (出典:環境省「エコドライブ10のすすめ」)

